

### グラフで見る名大生 [21]

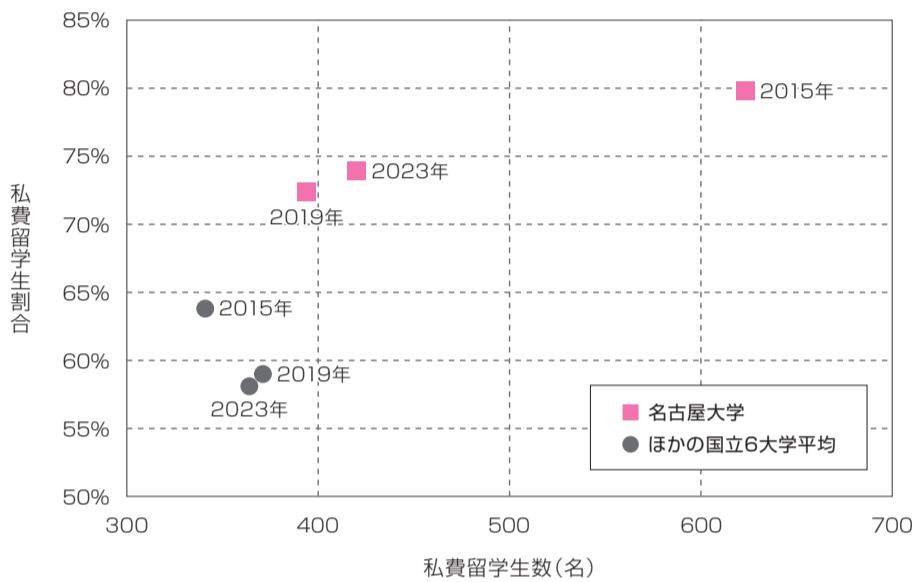
## 私費留学生在が集う大学

日本の大学における外国人留学生には大きく分けて2種類あります。日本国政府(文部科学省)の奨学金を受給する「国費留学生」と、それ以外の「私費留学生」です。「国費留学生」数はここ20年間9千人前後と一定ですが、2020年を目標とした「留学生30万人計画」(2008年策定)以降、「私費留学生」数は増加し、2019年には外国人留学生総数が31万人を超えました。新型コロナ禍の2022年には23万人に減少していますが、ふたたびの増加が見込まれる状況にあります。

「私費留学生」数の伸びが昨今の政策課題や大学の戦略と結びつくなか、名古屋大学は「私費留学生」の留学先に選ばれているのでしょうか。「私費留学生」数と外国人留学生総数に占める割合とをグラフに表しました。2023年とコロナ禍直前の2019年、2015年の3時点を示しています。比較のため、ほかの国立6大学(北海道大学、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学)平均も掲載しています。

名古屋大学では、3時点すべてにおいて、6大学平均よりも私費留学生の数が多く、総数に占める割合も高いことがわかります。とくに私費留学生の割合は6大学平均よりも10ポイント以上高くなっています。また、名古屋大学における2023年の私費留学生数(420名、73.9%)は新型コロナ禍前の2019年(394名、72.4%)より多く、すでに回復基調にあるように見えます。

上記大学に加えてその他の大学の状況や大学院の状況も確認できるグラフを作成しましたので(<https://web.cshe.nagoya-u.ac.jp/research/ir/14/>)、ぜひご覧ください。(松本みゆき)



【データ】大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>)の11go\_gkssuを加工して作成。

## 日本の博士エゴシステム (博士と共栄する社会)を考える

近年、日本では「博士離れ」が話題になっていきます(博士課程への修士学生の進学率は1981年度18.7%、2021年度9.7%)。しかしこの20年間に修士学生は4.68倍に増加し、修士課程から博士課程への進学数も2.42倍に増加しています。大学院生の増加と同時に、社会人

学生や留学生の増加など大学院生の構成変化や多様化も進んでいます。他方で科学技術指標を見ると、博士号取得者数が停滞・減少しているのは主要国の中で日本だけです。この対策として、文部科学省は、博士の数を2040年に現在の3倍にする計画(「博士人材活躍プラン」博

士をどうするか)を2024年3月に発表しています。修士学生が博士課程への進学を思いとどまる主な理由は二つあります。一つは博士学生に対する経済支援の少なさです。この点は博士学生に対する国からの手厚い支援が2021年度より始まり、かなり緩和されました。もう一つの理由は就職です。特に理工学系博士の有望な就職先としては産業界が考えられま

すが、修士課程修了後に民間企業に就職したほうが確実かつ有利だと捉えられています。2012年に発表された大西・長岡の論文では、日本の民間企業で働く博士の研究生産性(特許数や論文の被引用数)の高さを結論付けています。ではなぜ、日本の民間企業は多くの博士を雇わないのでしょうか。論文では、例えば企業では博士の研究生産性のみが重視されるわけではなく調整や管理など多様な能力が求められるためではないかと考察しています。もともと、変化の兆しはありません。日本の民間企業において博士は未だに少数派ですが、他の社員にない人的リソース・ネットワークを持ち、新しいアイデアを提供し、グローバル化の

中で海外企業からは博士号が目置かれるなどの価値が見出されています(篠田・鐘ヶ江・岡本、2014)。

一方、日本の民間企業で働く博士については、分らないことも数多く残っています。例えば待遇です。統計が整備されたこともあり、博士と修士の双方を含む大学院修了者の賃金プレミアム(大学院修了による賃金の上乗せ分)の存在は複数の研究によって結論付けられています。しかし経団連が2024年2月に発表した調査結果によると、博士特有の賃金体系を持つのは企業の約1割にとどまることとが分かりました。博士が賃金プレミアムに敏感かどうかは議論の余地がありますが、敏感であるう多数の修士学生に博士課程進学を促すためにも、賃金体系の決定背景や動向の把握が必要ですが、もともと賃金プレミアムが無くて、博士の民間企業での活躍が想定されます。その場合、活躍の場は研究開発に留まらないことも考えられます。例えばAGC代表取締役社長長執行役員CEOの平井良典博士などのように経営に携わることもあるでしょう。では企業で働く博士はどのような場で活躍し、その背景には何があったのでしょうか。

す。いわゆる「学び習慣仮説」です。AIの台頭などによる変化の激しい時代に専門家が第線で働くためには学び続けることが肝要です。博士は知的好奇心を持ち専門的な探究に長けているため、企業で働く博士も学び続けていると考えられます。それはどのように実施され、他の社員と異なるのか否か、興味深いところです。

博士の仕事満足度を国際的な文献から調査したYano and Funasasi(2024)によると、アカデミアで働く博士に比べて、企業などのアカデミア以外で働く博士の満足度の高さが示されています。これは高賃金と安定した雇用によるものです。日本の企業で働く博士は大学等で働く博士に比べて、その仕事に満足しているのでしょうか。

他方で、民間企業から大学院教育へのまなざしには厳しいものもあります。前述の篠田らの調査結果によると、博士や修士のレベルが落ちてきている印象を持たれており、能力の底上げが望まれています。博士の増加や多様化にはそれに見合う教育環境の整備が必要です。社会人学生や留学生も含めて、博士学生が安心して学べるシステムはどのようなものなのでしょうか。

社会での活躍に影響するのは大学の成績などではなく、学び続ける姿勢だと言われている

調査研究を進め、博士エゴシステムを引き続き考えていきます。(加藤真紀)

## 2023年度名古屋大学学生論文コンテスト結果発表

2023年度は4名に賞が贈られました。受賞者の論文は名古屋大学学術機関リポジリにて近日公開の予定です。

- 佳作「名古屋大学での空き時間における低年次学生の居場所の実態と理想」 文学部1年 藤井 和奏さん
- 佳作「総合型地域スポーツクラブの活動の柔軟性と機能についての研究」 文学部3年 堀 聡音さん
- 佳作「社会の繋がりととしての化粧役割 -働く女性の化粧規範に着目して-」 文学部2年 山元 隆雅さん
- 佳作「日本におけるクマと人間の関わり」 文学部2年 日下部亜虹さん

かわらばんへの意見・ご感想をお待ちしております。センターWEBページのフォームよりお寄せください。

かわらばんへの意見・ご感想をお待ちしております。センターWEBページのフォームよりお寄せください。

高等教育研究センター

# かわらばん

春号

名古屋大学  
高等教育研究センター  
ニュースレター第86号

# Higher Education Glossary

## 高等教育にまつわる用語集

### インターンシップ Internship

大学生が参加するインターンシップとは、学生が自らの専門分野や将来に見据えているキャリアに関連して、就労体験を行うものを指します。大学の関わりや期間、内容などが異なる、多種多様なものがあります。旧来は、企業等が個別に実施するプログラムに学生が自主的に参加していましたが、近年は、大学が正課内外にプログラムをもち、事前準備や振り返りを含めることが増えてきました。行き先は企業に限らず、教師希望の学生が学校現場に一定期間参加する教育インターンシップのように、さまざまな形があります。また、2025年春の新卒者からは採用に直結させるインターンシッププログラムも認められます。

インターンシップには、学生に高い就業意識をもたせたり主体的な職業選択を促したりするキャリア教育としての意義や、企業側に即戦力となる人材を供給できるようになるメリットが期待されます。さらに、アカデミックな教育研究と社会における実体験とが結びつくことで学生に新たな学習意欲が芽生えたり、産業界と大学界の互いの理解が増進されたりすると目されています。一方で、単に企業等に学生を送りこんでも学習効果は見込めず、大学側と企業等側での綿密なプログラム設計と学生へのサポートが必要であるとされています。

大学院学生には、企業や公的機関において研究開発に携わることのできる、研究インターンシップがあります。学部生のものに比べると長期にわたることが多いのが特徴です。ちなみに名古屋大学では、工学研究科が2005年度から取り組みをはじめ、派遣期間を集中的にも分散的にも設定できるといった柔軟性を持たせるなど、さまざまな工夫と知見を積み重ねています。

2021年に文部科学省は「ジョブ型研究インターンシップ」の枠組みを提示しました。大学院生が国内企業で長期間・有給の研究インターンシップに参加し、その評価を受けて、単位を修得する制度です。社会ニーズに即した大学院教育の提供はもとより、大学院生への経済支援、ジョブ型採用をみずえての実践力涵養、学修成果を活用しての採用選考などを目的にしており、受入企業による評価は当該企業が採用選考に用いることができます。

変革期のインターンシップにおいて、教育課程におけるインターンシップの意義・意味を見失うことなく、豊かな経験の場としていくことがより重要性を増しています。  
(齋藤芳子)

「2024年2月に完全に  
対面授業に戻った米国メリー  
ランド大学に実地調査に赴き  
ました。今回の渡米の目的は  
コ・カリキュラムプログラム  
(学生の学習を促進すること  
を目的にした正課教育と学生  
支援プログラムを融合させた  
プログラム)の調査です。総勢  
10名に及び教職員へのインタ  
ビューの最後は同じ質問で締  
め括られました。  
—コロナ禍後、学生の変化  
は何か感じますか。  
この質問に対して、全員か  
ら「変化があった」と回答があ  
りました。二つは、メジャー(主

専攻)の勉強に集中する傾向  
が強くなったこと。そしてもう  
一つは他者との関わりを苦手と  
する「シャイで臆病な学生」が  
増えたことと実感していること  
でした。このような学生の変化  
の背景には、オンライン環境や  
SNSへ依存や、親や社会か  
らの「良い企業への就職のため  
に備える」という外圧の強ま  
りがあると言われています。  
本誌「かわらばん」83号  
(2023年7月発行)の書籍  
『傷つきやすいアメリカの大学  
生たち』の紹介でも、SNSに  
依存したZ世代の大学生の特  
徴が示されていました。今回

のインタビューでも、コロナ禍  
で高校生活を体験してきた低  
年次学生は、効率よく将来の  
希望に真っ直ぐに向かう傾向  
が窺えました。  
では、このような学生の変  
化に対して、学生の教育を担  
う私たち教職員には何ができ  
るのでしょうか。メリーランド  
大学では、全新生の15%を  
占める約1,000名の学生  
を2年間のコ・カリキュラムプ  
ログラムへと招待し、生活と学  
問を往還させながら、成長を  
促す挑戦を続けています。プ  
ログラムは、メジャーとは異な  
る授業科目群や課外活動への

参加をとおして、学生が多様  
な視点から論理的に考えるこ  
とを促していきます。2年次  
には、1〜3単位の「実践スキ  
ル科目」が設定されており、イン  
ターンシップやサービスマー  
ケティング、研究プロジェクト、留  
学などの中から学生は自由に  
選択ができます。しかしコロ  
ナ禍が明けて久しぶりに実施  
された「実践スキル科目」で、  
80%の学生が選んだのはイン  
ターンシップだったそうです。  
大学としては留学やサービス  
ラーニングにもっと多くの学  
生に参加してほしいと考えて  
いるのですが、学生の変化は  
私たちが想定している以上に  
手強いかもしれません。  
(安部有紀子)

センターによる各種セミナーや新刊などの情報をメールでお知らせしています。  
本サービスへのご登録は、センターWEBページの「情報配信サービス登録はこちら」よりお申込ください。

………  
コロナ禍を経て変わりゆく米国の大学生  
………

### 読んでおきたい この1冊

Great Books on University

### 『科学と非科学 その正体を探る』

中屋敷均 著  
講談社現代新書 2019年

本書は科学を生命になぞらえて、その性質と意味づけを明快に語るエッセイです。著者によれば、科学は生命と同じく常に世界に開かれ、批判という淘汰圧に晒されて、発展する不完全なものである。また科学は批判や反論を受け入れる姿勢、それを受けて修正を繰り返す可塑性を持ち続けること、それこそが非科学と一線を画する科学の性質であるといっています。

後半では、高等教育に対する憂いが描かれます。研究者の現状の暗闇を作り出しているのは、選択と集中といった「淘汰圧」の行き過ぎと、「他者から評価されること」を第一義にするシステムの支配であると著者はいいます。そのなかで、研究者の選択や価値観、研究の方向性は大きく影響を受け、それが科学研究の衰退へ拍車をかけているというのです。した

がって、研究者としての生存戦略は、システムの中でよりよく評価され、競争的資金を調達することになります。そうした環境では科学の発展に寄与したいという研究者の純粋な欲求は損なわれ、他者の批判を受けられる科学的な姿勢すら、持ち得ないかもしれません。

「科学には伽藍ではなく、パズルが似合う。権威ではなく、個々の自由な集合体なのだ。」(p.86)と著者は述べます。個々の研究者が科学的な姿勢を貫く限りにおいて、健全な批判と修正が自由闊達に行われる、そんな大学の空間をつくっていききたいものです。  
(竹永啓悟)

### 高等教育研究センタースタッフ (2024年4月現在〔 〕内は専門領域)

センター長 北 栄輔 [情報学、機械工学、計算科学]	特任准教授 松本 みゆき [産業・組織心理学、キャリア発達論]	名古屋大学高等教育研究センター 〒464-8601 名古屋市中種区不老町 Tel 052-789-5696 Fax 052-789-5695 URL web.cshe.nagoya-u.ac.jp
教授 加藤 真紀 [高等教育学、国際人口移動、知識創造]	特任准教授 和嶋 雄一郎 [教学IR、知識工学、認知科学]	
准教授 安部 有紀子 [高等教育マネジメント、学生支援]	特任助教 竹永 啓悟 [高等教育論]	
准教授 安田 淳一郎 [高等教育学、学習評価、物理教育研究]	客員 Kinjal Vijay Ahir (インド サルダール・パテル大学)	
助教 齋藤 芳子 [科学技術社会論]	伏木田 稚子 (東京都市大学大学教育センター)	
研究員 東岡 達也 [高等教育論]	戸村 理 (東北大学高度教養教育・学生支援機構)	
	梅崎 修 (法政大学キャリアデザイン学部)	